

再生自転車の海外供与協力促進事業に対する表敬訪問がありました。

草の根ボランティアに直接届く再生自転車

豊島区の呼びかけで自治体等により組織された再生自転車海外譲与自治体連絡会（MCCOBA、会長：豊島区長）の活動は国際的に高い評価を得るに至っています。現在は家族計画国際協力財団（JOICFP、会長：明石康）、国際協力機構（JICA、理事長：緒方貞子）、国際家族計画連盟（IPPF、本部：ロンドン）や国連人口基金（UNFPA、本部：ニューヨーク）などと連携して行われています。

さかのぼれば、1988年（昭和63年）に豊島区が保管期間をすぎても引き取られなかった放置自転車を整備して、再生自転車として375台を海外へ譲与したのが始まりでした。それから20年が経ち、2008年1月18日には記念事業が文京区シビックセンターで行われる予定です。

当協会は1991年から「再生自転車の海外供与協力促進事業」として競輪公益資金の助成を行っています。

整備されていない道を「命の足」「二輪救急車」「走る回覧板」「動く薬局」として東奔西走する再生自転車は、工具やスペアタイヤ、スペアチューブ、チェーン、空気入れも一緒に送るので、26インチの軽快車に限定されています。また、コンテナに隙間無く収納するために、分解して積み込んだところ、現地において自転車を再組立することになり、これが技能支援につながっています。ただ、悪路を走行するため、大切に扱っても2,3年しか持たないそうです。



横浜の倉庫で分解される

再生自転車を受け取った組織からの感謝

再生自転車が届いた先から当協会等に礼状が届きます。感謝の言葉とともに継続を願う気持ちも綴られています。現地関係者の表敬訪問もあります。今年はずでに2件ありました。

「モットイナイ、モットイナイ」という表現で小学校の教科書にも取り上げられ、一村一品活動に力を注いでいるマラウイからは駐日大使閣下が、国際家族計画連盟アフリカ地域からは事務局長がいらしてくださいました。

MCCOBA（ムコーバ）が譲与した再生自転車の数は2006年までで、90カ国・53,175台に及んでいます。その内の54%がアフリカに贈られました。日本の再生自転車はとても乗り心地がよいと喜ばれています。



【表敬訪問】 マラウイ駐日大使閣下、一等書記官
とジョイセフ関係者（2007年10月2日）



国際家族計画連盟アフリカ地域・事務局長
とジョイセフ関係者（2007年8月30日）



この報告書は競輪資金の補助金を受けて作成しました

（平成19年10月9日：統括事業部）